

12 / 16 (日)

14:00-

京都市立芸術大学大学会館ホール

講師
奥村 一郎
パフォーマン
鈴木 昭男

奥村 一郎

和歌山県立近代美術館学芸員

近年担当した展覧会は、「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」(2017)、「なつやすみの美術館 6 きろくときおく」(2016) など。鈴木昭男氏に関しては、2005 年に「鈴木昭男：点音 in 和歌山 2005」を開催。また 2015 年には、その 10 周年記念イベントをゲストに梅田哲也氏を招いて行った。

鈴木 昭男

1941 年生まれ。60 年代より「自修イベント」の形で「音」の世界に目覚め、70 年代には「アナラボス」その他の創作楽器による演奏を開始し、南画廊・東京で個展 (1976)。80 年代は、素材そのものから音を探る「コンセプチャル・サウンドワーク」を創始、ドクメンタ 8・カッセルに出場した。〈1 日の自然に耳を澄ます〉音のプロジェクト「日向ぼつこの空間」を遂行 (1988)。90 年代からインスタレーションを手がけ、ベルリンでのソナンビエンテ・フェスティバル (1996) で発表の「点音 (おとだて)」(60 年代の自修イベントの公共板としての〈巷に耳を澄ます〉ポイントのマーキング作品) を各地で行ってきている。今年は、KUNST MUSEUM BONN にて新作を発表したほか、熊野古道なかへち美術館では、開館 20 周年記念特別展「鈴木昭男 ― 内 在 ―」を、和歌山県立近代美術館との連携企画として開催している。

「階段に物を投げける」1963 雑誌『デザイン』(1976) のための再演 photo: Nanae SUZUKI



第 24 回アーカイブ研究会では、和歌山県立近代美術館で開催された特集展示「鈴木昭男 音と場の探究」(2018 年 8 月 4 日～10 月 21 日) を企画された奥村一郎氏を講師にお招きします。同展は日本におけるサウンドアートの先駆者である鈴木昭男氏の、1960 年代から今日に到る足跡を辿る内容で、チラシやポスター、リーフレットといった印刷物、写真、映像、パフォーマンスで使用した音具などを主要な展示物として構成しました。展示を振り返りながら、今後進める鈴木昭男氏所蔵資料のアーカイブ計画についてもお話いただきます。また、トークとともに鈴木昭男氏によるパフォーマンスをおこないます。

特集展示
「鈴木昭男
音と場の探究」
をめぐって